

感染症に気をつけよう！



平成 25 年
【2月号】

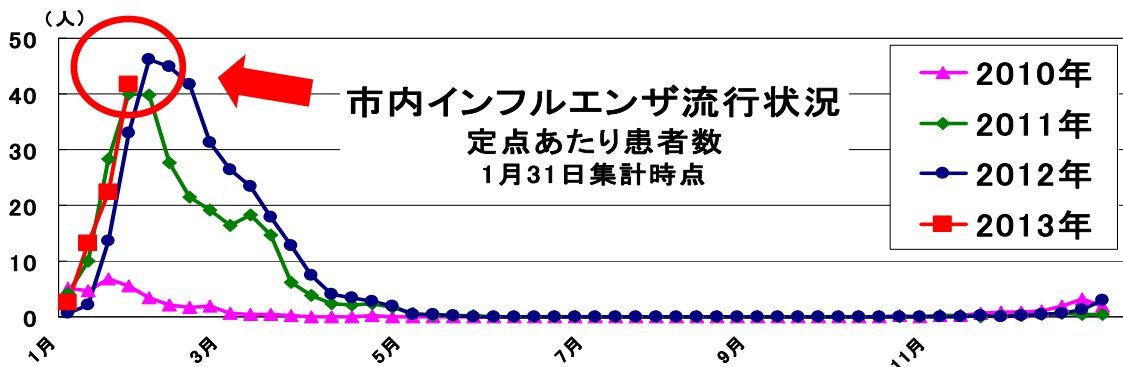
横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント
インフルエンザ	◎	▲	報告数が急増し、1 月下旬に 警報 が発令されました。学級閉鎖も急激に増えています。下段の解説をご覧ください。
風しん	●	→	1 月以降も成人男性を中心に 流行 しています。 先天性風しん症候群 を防ぐためにも、 予防接種 を受けましょう。 【8月号】
マイコプラズマ肺炎	●	→	報告数が多い状況が、まだ続いています。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。 【11月号】

◎流行 ●やや流行 ▲増加 →横ばい

今、気をつけたい感染症 = インフルエンザ

- ◆ インフルエンザウイルスの感染が原因です。症状は 38℃以上の発熱や咳、のどの痛み、全身の倦怠感や関節痛などで、風邪とは異なります。A 型・B 型などの種類があり、一度かかった人が、同じシーズン中に別の型にかかる場合もあります。例年、1～2 月に流行のピークがあり、学校等では集団発生もみられます。
- ◆ 特に、高齢者・小児・妊婦やぜん息などの持病のある方では、重症になりやすく注意が必要です。自己判断せずに早めに受診しましょう。



- ◆ 患者の咳で飛び散るしぶき(飛沫)や鼻水には、ウイルスが含まれています。そのため、飛沫を含む空気を吸い込んだ人に、インフルエンザが感染します。また、飛沫で汚染された物に触れた手からも、目や鼻の粘膜を通じて感染します。
- ◆ 感染を避けるには、**手洗い**・うがい・マスクの着用が大事です。患者となったら、他の人にうつさないように**咳エチケット**を守りましょう。
- ◆ 抗インフルエンザ薬を使い解熱しても、他の人にうつすことがあります。発症後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日(幼児は 3 日)を経過するまでは、学校等は休みましょう。
- ◆ **予防接種**も有効で、発症する可能性を減らし、もし発症しても重症化を防ぎます。



この資料は、[横浜市感染症発生動向調査委員会報告](#)1 月期の**市民向け版**です。ホームページの**感染症発生状況**や**啓発用パンフレット**もご覧ください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】